

会 報

鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究会
URL <http://ajgika.ne.jp/~kagoshima/>

あ い さ つ

鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究会
会 長 有村 修次

今から55年前、私が小学校に入学する前、テレビアニメの鉄腕アトムを見て、ロボットの活躍や科学技術が発達した未来都市の生活に胸を躍らせたものです。現在、日本政府は、テクノロジーを活用した社会の仕組みをつくる「Society（ソサエティ）5.0」を提唱し、30年後以降には、超情報化社会が確実に訪れるまでになりました。正にあのアニメで見た生活がそこまできているのです。一方、現在の10代の50%が100歳まで生きると言われており、「人生100歳時代」も到来します。そのような時代を生き抜いていく生徒たちに、今、技術・家庭科ではどのような授業をすべきなのでしょう。本年度、技術・家庭科新設60年が経過しました。この間、学習指導要領改訂に伴い、その時代に即した内容への変遷を経て現在に至っています。しかし、より生活と密着した本教科において、今後、約10年毎の学習指導要領改訂で、時代に対応していくことができるのでしょうか。「10年一昔」と言われて久しいですが、社会の変化が加速度的に速くなっていく現代社会においては、学習指導要領を踏まえながら学習内容や題材を社会の実態に即したものに変わっていく必要があります。そのためには、我々教師がこれまで以上に科学技術の進歩や生活の変化に対応した教材研究を積み重ねなければなりません。さて、現行学習指導要領告示から10年目となり、その間、本研究会では「生きる力」の育成や知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視した指導等、本教科の目標を達成するために、工夫改善を重ねて参りました。本年度は、新学習指導要領を見据えながらも現学習指導要領のまとめとして重要な年でもあります。4年前から研究主題「学びを生かし合い、よりよい生活を工夫し創造する力と態度を育む技術・家庭科教育」を掲げ、昭和57年から取り組んできた問題解決的な学習の「6分節」に基づいた授業を踏襲した授業設計に取り組み、一定の成果をあげてきました。しかし、本研究会の活動で最大の課題が、技術・家庭科を専門とする教員の減少です。その要因の一つとして、授業時数の減少があげられます。授業時数を増やすために今私たちにできることは、授業の更なる質の向上を図り、本教科の目標を達成した生活を工夫し創造する資質・能力を備えた子供の姿を示すことです。この積み重ねこそが授業時数増につながると確信しております。

県内の技術・家庭科担当者が一丸となり、授業改善を推進し、本教科がこれからの時代を生き抜く人材育成にとって、重要な教科であることをアピールしていきましょう。

第63回鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究大会を終えて

曾於地区

1 はじめに

平成30年度鹿児島県中学校技術・家庭科教育研究大会を曾於地区が担当しました。多くの参加をありがとうございました。

本地区は、小規模・中規模の学校が多く、期限付教諭、非常勤講師、臨時免許の保有者の割合がかなり高くなっています。このような中で、昨年度から地区内の先生方が集まり、県大会へ向けて準備を進めてきました。研究授業においては、指導案検討や模擬授業を重ね、実りあるものにすることができました。今後も地区会員が一体となって更に努力していく所存であります。大会運営につきましては不十分な点もあったと思いますが、参加された皆様のご意見を参考に、本地区の技術・家庭科教育の発展につなげたいと考えております。ご参加・ご協力、ありがとうございました。

2 研究大会内容について

①日時 平成30年11月16日(金)10:00~16:30

②会場 曾於市立末吉中学校

③研究授業

<技術分野> 授業者 一村 春司 教諭

授業内容：「A 材料と加工に関する技術」

<家庭分野> 授業者 恵 亜矢 教諭

授業内容：「C 衣生活・住生活と自立」

④授業研究

<技術分野>

司会 鹿児島市立星ヶ峯中学校 小山 繁 教諭

記録 志布志市立志布志中学校 外城 隼輔 教諭

<家庭分野>

司会 出水市立出水中学校 塗木 里奈 教諭

記録 志布志市立志布志中学校 幸田 夏美 教諭

⑤研究発表

発表者：鹿児島大学教育学部附属中学校

山口 隼人 教諭

内容：「学びを生かし合い、よりよい生活を工夫し創造する力と態度を育む技術・家庭科教育」

発表者：日置市立吹上中学校 税所 賢太郎 教諭

内容：「小中のつながりを意識したプログラミング学習における指導計画と題材の工夫」

発表者：鹿児島市立松元中学校 柿元 慶子 教諭

内容：「学びを生かし合い、よりよい生活を工夫し創造する力と態度を育む技術・家庭科教育～「食」を軸とした問題解決的な学習の工夫」

研修会だより

<技術分野>

- ① 日時 平成30年8月3日(月)
 - ② 会場 鹿児島市立吉田北中学校
 - ③ 参加人数 8人
 - ④ 内容
(1) 実技研修：『計測・制御単元の教材研究と授業の構築（オーロクロックの活用）』
講師：久富電気産業株式会社（広島県）
中田 幸司 様
 - (2) 技術家庭科県大会（曾於）打ち合わせ
・ 指導案検討，研究発表内容検討
- ⑤ 参加者の感想

<技術分野>

- ・ オーロクロックの実技で制御体験でき，プログラミングや複数でのデバッグまで，大変おもしろく，楽しく研修することができました。
- ・ 双方向性のあるコンテンツのプログラムについて，今後何を取り組めばよいのか考えていくヒントになりました。
- ・ オーロクロックの7セグは，工業高校の電気科や情報科へのつながりができるのでおもしろいと思いました。
- ・ 多くの参加者（地区から少しずつでも）があると県下の研究の浸透になると思います。

<家庭分野>

- ① 日時 平成30年8月3日(月)
 - ② 会場 鹿児島市立城西中学校
 - ③ 参加人数 27人
 - ④ 内容
(1) 実技研修：『色を味方に自分らしく輝いて楽しい毎日』（関連：カラーコーディネート）
講師：カラーサロン・ハハ
まつやま ゆみ 様
 - (2) 技術家庭科県大会（曾於）・全国大会発表内容
・ 指導案検討，研究発表内容検討
- ⑤ 参加者の感想

<技術分野>

- ・ 色を身に付けることに自信がつかえました。NGワード（似合う・似合わないなど）で，生徒へ還元していきます。
- ・ 学んだおもしろさを生徒に伝えられるようがんばります。
- ・ 免許外で，日々の指導に悩むことも多いですが2学期に生かせるようなヒントをいただけて，嬉しかったです。
- ・ 同教科の先生方が，こうして集まり，意見交換ができる機会がもててありがたかったです。

総務部

昨年度は，第66回県研究大会(鹿児島地区大会)・県作品展並びに九州大会が行われ，県内会員の多くの先生方に参加・協力していただきました。内容の濃い研究授業・研究発表・研究協議が展開されたことに，深く感謝申し上げます。

また，本年度は曾於地区にて第67回研究大会，第18回アイデアロボットコンテスト県大会(吉田北中)，第20回創造アイデアロボットコンテスト九州地区大会(吉田文化体育センター)，第12回ものづくり競技大会(かごしま文化工芸村)に多くの参加をいただき，盛会のうちに終了することができました。

本年度の今後の活動としては，冬季研修会が平成31年2月9日(土)に(技術分野：鴨池公民館「生物育成に関する技術」，家庭分野：鴨池公民館「調理実習だしを使った調理・蒸し料理」)開催されます。

今後も，県内の先生方のご支援，ご指導をよろしくお願いいたします。

お知らせ

- 1 県版学習ノートを多くの学校で採用していただいております。来年度も採用の検討をよろしくお願いいたします。なお，新学習指導要領に合わせた改定は再来年度を予定しております。
- 2 研究誌「技術・家庭」をHPに掲載しております，この研究誌は，本県技術・家庭科の先生方の研究を掲載しております。本県の先生方の参考となりますよう研究(研究論文)あるいはグループ研究等ございましたら是非掲載にご協力ください。
- 3 第32回 鹿児島県中学校技術・家庭科作品展を11月16日(金) 曾於市立末吉中学校にて開催しました。授業や長期休業中の生徒・教師作品の多数の出品ありがとうございました。※結果はHPに掲載
なお，入賞作品は，申請すれば「ものづくり検定」で級を取得することができます。詳細は，HP内の「中学生ものづくり技能検定制度規定」を参考にしてください。※本年度は締切りが終了しておりますので来年度以降ご活用ください。
- 6 平成31年度は第12回ものづくり競技大会九州大会が本県で開催されます。参加・ご協力をよろしくお願い致します。

<問い合わせ・連絡先>

〒890-0067 鹿児島市下伊敷一丁目11番1号

鹿児島市立伊敷中学校 精松 真由

TEL (099) 226-0522

FAX (099) 226-0523

Email madotechin0123@yahoo.co.jp